

健全育成シリーズ(90) 少子化時代の足音



現在の都留市で一年間に誕生する子どもの数は、第二次ベビーブームと言われたピーク時に比べると二分の一以下になっています。皆さんはこの事をご存知でしょうか。毎日の生活の中ではさほど子どもの数の極端な減少に気付く機会はないのですが、徐々に少子化時代の足音が日々の市民生活の中に聞こえ始めました。

子どもたちの成長にとって、このようにともに育つ仲間の数が少なくなっているということは大問題です。また、親の子育てに対する姿勢が問われはじめています。しかし、昔の親は全て子育てで上手だったのでしょうか？ そんなことはなかったと思います。確かに何人もの子どもを育てていた時代ですから、今よりはるかに子育てで上手な親もいたことでしょう。しかし、全ての親が子どもの育ちに関心を持って、一生懸命子育てをしていたとは思えません。むしろ子育てに対する関心は、今の方がずっと強いのではないのでしょうか。では、どうして今よりも子どもたちの育ちが保証されていたのでしょうか。それは子どもたちをとりまく地域社会の関わりが強かったからと言えます。子どもと子ども、子どもと若者、子どもとお

年寄り、子どもと親の関わりです。現在の子どもたちの育ちの環境を改めて見直してみると、このような「まわりの人との関係」の希薄さに驚かされます。誕生してから数年間は

母親と多くの時間を過ごし、辛うじて保育所・幼稚園で同世代の仲間との生活はあるものの、家へ帰ればまた特定の大人との生活です。極端な例ですが二、三歳の時期にテレビやビデオを一日四時間も見るという調査結果もあり、またその生活習慣が小学校、中学校へ行っても変わらないと指摘する人もいます。また、核家族化への傾向も子どもたちの人間関係の希薄さに拍車をかけています。多くの人の関わりが大切になってくる時期に、一日の多くの時間を家の中の変化のない環境で過ごしてしまっている現在の子どもたちの姿が見えてきます。今、そんな人たちの関わりが極端に苦手な子どもたちの増加が、いろいろな場面で問題行動として現われ始めていることは皆さんもご存知のところだと思います。子ども、特に乳幼児期の子どもの心の成長は他者との関わりの中で成し遂げられていくと言っても過言ではありません。少しくらい親が未熟であっても、その子どもが暮らす生活環境の中に多くの人が関わっていることで安定したやさしい心は育つのです。その意味で隣り近所にガキ大将や怖いおじさんのいた昔は良かったと言えるかもしれません。

しかし、現在のように急激な少子化が進んでしまうと、昔は良かったと振り返っている余裕はありません。日々進められている子どもたちの生活を少しでも良い方向へ進めていかなければなりません。皆さんが子育てをされている環境の中に、同世代と一緒に遊ぶ子どもがいなければ、居る所へ出かけていかなければなりませんし、決して最初から上手に遊ぶ子どもなど居ないということも知らなければなりません。せっかく一緒に遊ぶ友だちを見つけても、「ケンカばかりするので遊ばせるのがイヤ」なんて親が言っていたら始まりません。子どもの遊びのスタートは物の取り合いやケンカから始まっていくものです。

昔は子育てをあえて考えることはしなくても、毎日の生活が自然に流れていく中で子どもたちが大きく育っていききました。現在のようにな少子化の進んだ環境が子どもたちの成長にとっていかに多くの悪影響を与えているかに社会全体が気付く、真剣に対策を考えていかなければならない時代となりました。まずは現在子育てをされているお母さんやお父さん方が自分達の育った環境とは違うことを知り、さらに社会全体が子育てをサポートしていくシステム創りを進めていかなければならないことを痛感しています。

今、少子化時代の足音が私たちの身の回りで大きなうねりとなって聞こえています。

伝言板 大月保健所

大月市大月町花咲1608-3
☎(22) 7824

「Sマーク」登録店
を利用しましょう！

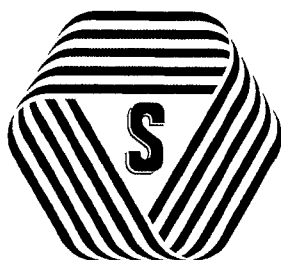
Sマークとは、法律に基づき、消費者保護の観点から創設され、理容業、美容業、およびクリーニング業について、「サービスの提供」「店舗の衛生・管理」および「事故による損害賠償」に関する事項を「約款」として定めたものです。

この登録店では、店頭に「Sマーク」を掲示し、次の事項を表示し、保障しています。

- 施設や設備の内容について
- 事故が発生した場合の賠償保険について
- 仕事やサービスの内容について

Sマーク

厚生大臣認可
標準営業約款



詳しくは、財団法人山梨県環境衛生営業指導センターへお問い合わせください。
☎05552 (32) 1071

12月1日は 「世界エイズデー」です

今年度の「世界エイズデー」のテーマは「時代が変わる、君が変わる」大切な人と生きるために」です。

これは、わが国における新規感染者の内、二十九歳以下の若者への感染拡大傾向を踏まえ、若者たちに焦点をあてた普及啓発のためのテーマです。

この日を機会に、今一度エイズについて自分自身の、あるいは身近な問題として考え直していただければと思います。

エイズという病気は、一九八一年アメリカで最初の患者が発見されました。そして、一九八三年フランスのモンタニエ博士らによって病原ウイルス(HIV)が見つけられました。エイズはウイルスによって引き起こされる病気の名前です。糖尿病、肝炎、梅毒、胃がん、脳卒中などと同じ単なる病名に過ぎません。

HIVは、感染力が弱く、かつ感染経路が限られていますので注意すれば予防は十分可能です。人まかせにせず、予防はまず自分が行うということを忘れないでください。

不安に思うことがあります。ならば、まず、保健所に相談し、検査を受けましょう。相談・検査は無料で、しかも匿名で受けられます。